

374) 惚れたのはお前だけ

惚れた女と別れた夜は 水で割ってちゃ酔っ払えない
一気にダブル呑みほして 忘れるだけさ過ぎし日を
酒の匂いに酔いながら お前の香り思い出す
惚れたのはお前だけ 惚れたのはお前だけ

お前の過去がどうであろうと 俺が惚れたは今のお前さ
過去のことなど隅^{すみ}っこに しまっておけばそれでいい
酔いがまわって愛^{いと}しさが 涙になってあふれ出る
惚れたのはお前だけ 惚れたのはお前だけ

心の痛みふたりで分けて お前とともに暮らしたかった
過去があろうとなかろうと お前のことが好きだった
白い吐息が暗闇に 溶けてくように消えてゆく
惚れたのはお前だけ 惚れたのはお前だけ

お前とふたり愛し合えたら 金も名誉も何もいらぬ
どこか都会の片隅で そっと生きるも悪くない
夜更^{よふ}けの道^{くつおと}を靴音が 通りすぎてく寂しげに
惚れたのはお前だけ 惚れたのはお前だけ